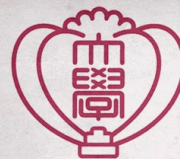


KPU NEWS



社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 196 Jan. 2019



2019(平成31)年 年頭のごあいさつ

理事長 土屋 勝

新年明けましておめでとうございます。

京都薬科大学関係者の皆さま方には、新たな気持ちで2019年を迎えられたことと存じます。

昨年は、女子レスリング、アメリカンフットボール、体操女子などスポーツ界のパワーハラスメントが大きく社会的に注目を集めました。過去から何度も繰り返されてきた問題であるにもかかわらず、なぜは正できないのでしょうか。

いずれも監督・コーチなどの指導者が立場の弱い選手に対して行ったもので、この指導者と選手の関係は、上下関係がしっかりしていて、上の者には質問できない、疑問、不満があっても物申せない、と言った雰囲気です。このような環境の中で指導者は選手の気持ちを考えずに行ったものと思われまます。

厚生労働省は、パワーハラスメントを「他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えること。」と定義しています。

すなわち、相手が自分と同じように、「考えている」、「思っている」、「感じている」とは限りません。そもそも相手は「自分とは違う」存在であることを常に考え、「こんなことを言えば、相手がどう思うか」、一歩下がって行動していただきたいと思います。

さて、一昨年5月理事長就任時に、私の大学運営に関する目標は、「大学の価値を高める」ことであると、申し上げてきました。大学の価値は、教育・研究力、財務力、就職力、偏差値、そして薬剤師国家試験の合格率などの指標を高めることが重要ですが、しかし、残念ながら一部を除きその指標は上がっていません。

今年は第3期中期計画が3年目に入り、折り返し地点であります。この中期計画には教育職員評価制度の導入、3つのポリシーを実現する入試制度・カリキュラムの改革、「京薬ブランド」を高める広報活動など55のアクションプランがあり、これらの完遂が「大学の価値を高める」ことになると確信しています。本年も、この第3期中期計画の推進には最大限努力してい

CONTENTS

■ ご挨拶

- 2019(平成31)年 年頭のごあいさつ 理事長 土屋 勝 1
- 年頭にあって 学長 後藤 直正 2
- 新任・昇任のご挨拶 3

■ 特集

- 創立記念日の変更について 6

■ コラム

- 卒業生からのメッセージ 16
- 水中でぶつぶつ 27

■ 報告

- 平成30年 秋の園遊会にて 8
- 第1回京都廣川書店賞2018を受賞しました 9
- フライブルク大学夏大学体験談 10
- 名古屋市中消防署長から感謝状が贈られました 13
- 運動系クラブ 応急手当講習会 20
- 受賞 21
- 地域の小学校で薬物乱用防止教室を開催 23
- 学生登録スタッフについて 24
- 2019年度推薦入学試験結果 26
- 授業料減免制度利用者より感謝のお手紙を頂きました 27
- 京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 28

■ イベント

- リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018京都を開催 5
- 2018年度 防災(避難)訓練を実施しました 5
- 2018年10月にオープンキャンパスを開催しました 12
- 第24回京都薬科大学公開講座開催 13
- 2018年度京薬祭を終えて 14
- 2018年度合同多職種連携(IPE)研修会報告 15
- 各種セミナーの報告書 15

■ お知らせ

- Library News 9
- 人事 9
- 第104回薬剤師国家試験 16
- 2018年度後期試験等日程 17
- 教育後援会からのお知らせ 18
- 2019年度生涯研修プログラム概要 19
- 京薬コレクション 20
- 2018年度動物慰霊祭 23
- 京薬会だより 24
- クラブだより 25

きますが、教職員の皆さまも一体となってこの推進に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

今年は、本学創立135年です。詳しく遡りますと本学の前身である京都私立独逸学校の開学から135年、また、京都薬学専門学校の設立から100年目、京都薬科大学設置後70年目の節目の年であります。この節目の年から創立記念日を改めました。本学の創立記念日は、京都私立独逸学校の開学日である1884（明治17）年4月15日とされてきましたが、今般、新たな資料が発見され、京都私立独逸学校の開学日が1884

（明治17）年4月27日であることが判明し、理事会、評議員会で審議の結果、創立記念日を4月27日に改めました。なお、詳細につきましては、特集記事をご確認ください。

最後になりますが、今年は亥年です。ちなみに亥は、無病息災の象徴とされており、また目標に向かって猛進する動物とされています。皆さま方もご家族共々無病息災で、自分の立てた目標に向かって猛進していただきますようお願い申し上げます、新年の挨拶とします。



年頭にあたって

学長 後藤 直正

明けましておめでとうございます。新年にあたり、昨年のことを振り返り新しい年へ向かいたく思います。

昨年、デジタル元年と広報の強化を課題に掲げました。デジタル化については教育職員と事務職員の各系統の統一ならびにそれに伴う本学のデジタル化事業が鋭意継続されております。デジタル化に伴い、従来お使いのソフト等の変更も余儀なくされることもあろうかと思いますが、セキュリティ強化、ソフト等の利用の利便性向上、学内諸データの活用によって教育・研究・運営の円滑化のためと御理解下さい。

二つ目、広報ですが、本学の教育・研究活動を、社会に、学生に、卒業生に知っていただき、また職員間で再確認するための方策であり、決して華美な宣伝によって本学を美化するものではありません。広報というのは有益な財産を広く周知することに加えて、事業を強い意志で行うという社会への宣言でもあります。このような考えのもと、本学のタグライン「薬学の未来をつくる」が「社会を動かす薬学へ。」に改められました。本学の教育力・研究力・運営力を背景に、他大学、医療機関、介護・福祉事業体、国内外研究機関、自治体など、薬学を巡る諸分野と連携し、社会課題の解決に挑戦するファーマシスト・サイエンティストの育成に取り組む本学の方向性を示すものです。

このタグラインに沿って新たなプロジェクトが展開されております。地域包括ケアにおける在宅医療の教育・研究と地域への還元を目指す渡辺西賀茂診療所、(株)ゆうホールディングスとの学術交流、京都第2赤十字病院との学術交流、生涯教育プログラムのブラッシュアップ、がんプロ発の各種セミナーや

「AMRシンポジウム」の主催、行政との連携や地域貢献においては地元小学生を対象とした山科理科実験講座、明治150年京都創生プロジェクトへの参画、京都産業21への協力などが挙げられます。研究面では「セラノスティクス」や「腎臓への新薬物送達(DDS)技術の開発」に関するプレスリリース、教育面では、数年前から始めている京都橘大学との多職種連携教育(IPE)に理学療法学科も加わり参加者が前年比約1.5倍に、学生のグローバル医薬品開発教育のためのCRMPへの参加者が34名に大幅に増加、学生ジョブプロジェクト制度が定着し、プロジェクト数や参加学生数が大幅に増加しました。国際交流の点では本年2月からドイツ・ロッテンブルグのセントラル薬局の見学実習も始まり、MCPHS大学(USA)で行われております薬局見学に加えて、ヨーロッパ型の薬局体制を学生が学ぶ機会になればと期待しております。また、7月に締結した「科学教育を基盤に円滑な医療推進、健康維持に貢献できる人材育成」を目指した星薬科大学、明治薬科大学との3大学連携SCRUMプロジェクトは「学生教育」「卒業生」「教育職員・事務職員」の3本の柱で推進すべく、現在3大学間のWeb会議が精力的に行われているところです。関東と関西という文化の異なる地域が組んだプロジェクトから新しい風が吹くことに期待したいものです。

お分かりのように、以上の事業は2018年になってから始めたものばかりではなく、継続するなかでより活性化が図られた事業も少なくありません。これらの事業の展開をメディア向け冊子であるファクトファイルや教員ファイルをもとに、本学の展開を学内外に伝えるべく広報活動を行ってききましたところ、メディア報道がかつてよりも大幅に増加してきました。本学の価値を社会に広く認識される第一歩

であると考えております。

学生の皆さんの現状を振り返りますと、現在の6年次の皆さんが社会から高い評価を受けていることは就職状況から明らかであろうと思います。今年度も本学卒業生の就職率が薬系大学ではトップですし、全大学の同じ規模の大学では第5位にランキングされております。来年度も同様の成果が得られるものと推測しております。3月に行われます第104回薬剤師国家試験に向けて努力をされていることでしょうか。明るい成果を期待しております。

在学生の皆さんについては薬学を学ぶことはもちろんのことですが、広い視野を持つことも大事です。学内ジョブプロジェクトへの積極的な参画を期待します。本学には薬学教育のリーディング大学であるべき使命があります。本学の学生は薬学界のみ

ならず、広い分野で活躍する人材となるべきです。オープンキャンパスなどで受験生の保護者の方々と話すとき、皆さんへの評価が高いことを感じます。自信を持って勉学、課外活動に励んで頂きたく思います。

新年にあたってという稿にも関わらず、本学の現状を書き連ねました。これらの事業から、私たちは本学独自のエネルギーを持って教育・研究・運営を行っていることを振り返って頂きたく思います。また学生の皆さんには個々に能力を秘めていること、大きな世界を拓くために、今ここで能力をさらに磨いていただきたい。自信と希望を持って新たな年にもともに向かって頂けることを期待して新年の挨拶にさせていただきます。

新任のご挨拶



基礎科学系
一般教育分野

ひろこ
助教 朝比奈(玉垣) 裕子

この度、2018年10月1日付で一般教育分野の助教に着任いたしました。私は2008年兵庫県立大学理学部を卒業後、大阪大学理学研究科に進学し、2015年に相本三郎教授のご指導の下、ペプチド化学と構造生

物学を融合した研究を行い、博士号を取得いたしました。学位取得後、University of Oxford (英国)の博士研究員としてタンパク質工学の研究に携わり、帰国後、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センターの特任助教として教育にも携わらせていただきました。

本学では、薬学英语の教育を通じて、ファーマシスト・サイエンティストの輩出に貢献できるよう尽力する所存でございます。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



生命薬科学系
病態生理学分野

准教授 細木 誠之

この度、平成30年10月1日付で生命薬科学系病態生理学分野の准教授を拝命いたしました。私は平成10年に京都府立医科大学卒業後、同第二内科学教室での研修期間を経て平成14年より同呼吸器内科に入局し、平成21年にカンジダ肺障害の治療法の基礎研究にて学位を取得しました。その後、同細胞生理学教室(丸中良典名誉教授)にてpH制御に関わるイオン輸送体を標的とした癌治療の研究を開始してまいりました。Na⁺/H⁺交換輸送体-1やプロトンポンプ、また癌特異的に発現する炭酸脱水酵素の制御による癌細胞増殖抑制効果を検討して参りました。また生体内における間質液pHが、糖尿病疾患において酸性に傾くことを明らかとし、またその改善が糖尿病発症

に予防的に働くことも明らかとなりました。また近年におきましては気道上皮細胞の線毛細胞に着目し、その運動制御にpHやクロライドイオンが関わることを明らかにするとともに、気道上皮の前駆細胞から線毛細胞への分化誘導法を確立し線毛運動のみならず、線毛細胞におけるイオン輸送につき検討しております。

この度、病態生理学分野におきまして生理学的機能の破綻に伴う病態生理を明らかにするとともに癌における酸性微小環境をいかに克服し治療に応用するかといった新たな治療法の開発の探究を行うとともに、前任の医学部医学科や看護学科での臨床・基礎教育経験を生かし、本学学生や卒業教育にも誠心誠意努力して邁進して行く所存でございます。微力ではございますが、本学のさらなる発展に貢献できるよう、より一層尽力してまいります。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局
施設課

課長 中谷 庄吾

2018年9月1日付で事務局施設課長に着任いたしました。

私は長く製薬企業の研究所に勤務しておりました。最初の研究職時代には初期段階の創薬研究、合成研究に従事し、その後、業務管理部門に異動して、総務、環境安全などを担当しました。また、この間、研究棟の新築、改築などの施設整備

プロジェクトにも参画してまいりました。

本学ではこれまで出向職員として施設課に3年半勤務しておりますが、その間、創立130周年記念館建設や愛学躬行歴史資料室の開設にも関わらせていただき、改めて130年を超える歴史と伝統の重みを感じることができました。このような大学の施設課長という重職に任命していただき、大変深く感謝しております。

今後はこれまでの経験を最大限に活かし、先端的研究及び薬学教育を支える施設整備を行うとともに、安全で快適なキャンパス作りに尽力してまいりたいと思います。これまで以上のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



事務局
施設課

事務員 深田 祐輔

2018年9月1日付で入職致しました。普段は伏見区の薬用植物園で植栽管理業務に従事しております。

私は2017年3月に岐阜大学応用生物科学部を卒業致しました。在学中は広く植物生産を学ぶとともに、海外原産作物の交配手法の検討をテーマに研究しておりました。

卒業後は商社に勤務し、自動車メーカー向けにソフトウェア開発の営業をしておりました。自動運転の実現に向けて変革を迎えている自動車産業において、今後の市場動向やニーズを先読みし、自社の価値を創出、ビジネスを作る事の面白さや難しさを目の当たりにしました。

市場動向といえば、高齢化が進む現代日本では健康寿命の延伸と医療費の軽減を目的として、高品質の薬用植物に対する需要が増加傾向にあります。そんな中で教育・学術面だけでなく、社会貢献の面からも植物園の価値を高めるべく尽力し、本学の発展に貢献する所存です。至らぬ点も多いかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

昇任のご挨拶



病態薬科学系
薬物治療学分野

准教授 松本 健次郎

平成30年10月1日付で薬物治療学分野の准教授の任を拝命いたしました。私は平成10年に東邦大学薬学部を卒業後、千葉大学大学院薬学研究院に進学し、薬理学の基礎を学びました。平成17年度に城西国際大学薬学部薬理学研究室、助手として薬学部での教育、研究活動を開始いたしました。平成26年度より本学薬物治療学分野の助教として教育、研究に携わってまいりました。

私は、腸疾患における温度感受性TRPチャネルの機

能解明を中心とした研究を行ってきました。今後は、学内外でのライフサイエンス研究を精力的に推進し、過敏性腸症候群、大腸がん・線維化といった、新薬開発が期待されている疾患について、本学発の先端的で高度な研究を行うことで医療に貢献していきたいと考えています。

教育面では、これまでの経験を生かし、熱意と責任感をもって研究を基盤とした教育を実践することで、「学生の自立性、社会性、リーダーとしての素養」を育み、多くの領域で活躍する人材を育成したいと考えています。浅学の身ではございますが教育、研究に一層精励いたす所存でございますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018京都（主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都実行委員会、公益財団法人 日本対がん協会）が、昨年に引き続き今年も本学にて開催されました。本イベントは、がん患者さんやご家族、その支援者の皆さんが交代でタスキをつなぎながら夜を徹して歩く「夜通しウォーク」（写真上）や、様々な企画を通じて、がん征圧への願い、絆を深めることを目的とされています。京都府では2011年に1回目のイベントが開催され、今年7回目を迎えられました。



本学では、がん治療薬、がん薬物療法など、がんに関する研究活動を行っていることから、本イベントの趣旨に賛同し、会場・施設の提供と学生ボランティアの運営参加に微力ではありますが協力させていただきました。



開催期間：2018年9月29日（土）16：00～22：00

※台風24号接近に伴い、当初予定の期間を短縮して開催されました。

2018年度 防災（避難）訓練を実施しました

2018年度防災訓練が10月16日（火）の昼休みに本校地で実施されました。本年度は地震や台風といった自然災害が多く発生したことから参加者の皆さんは強い関心を持って臨まれたと思います。

昨年度に引き続き、山科消防署のご協力を得て授業中の地震を想定した訓練を行いました。また山科自衛消防隊訓練大会参加者による放水訓練も実施し、充実した防災訓練となりました。



山科消防署によるシェイクアウト訓練の様子



避難の様子



放水訓練の様子

訓練総括

本学では建物の耐震化は全て完了し、愛学館は建築基準法に則ったタイル落下防止のための外壁調査・改修工事も進めております。また、防災用品・食糧の備蓄も拡充しています。

これらは皆さんが安心して学修・研究に取り組むための環境整備です。しかし安全・安心のために最も大切なことは一人ひとりの防災意識を高めることと、過酷な状況にあっても周囲を思いやる心を持つことではないでしょうか。

今回の訓練のような機会に、折りに触れて自分のこととして考えてほしいと思います。

創立記念日の変更について

本学の創立記念日は、これまで4月15日とされてきましたが、理事会にて慎重に検討を重ねられた結果、次年度の創立記念日から4月27日に変更されることになりました。創立記念日の変更という、本学にとって重要な決定の理由について、そのきっかけとなる史料を見いだした者として、以下に説明させていただきます。

一般教育分野 教授 鈴木 栄樹

Feature article.

本学の創立記念日とされてきた4月15日は、創立80周年を翌年にひかえた1963（昭和38）年12月2日の法人理事会において決定されたものでした。これより先、同年4月26日の理事会で、京都薬科大学の設置認可日である2月21日を創立記念日とすることが内定していましたが、12月2日の理事会において、創立記念日を本学の前身である京都私立独逸学校の「開学日4月15日」に改めることが決定されました。「開学日」という表現については、『京都薬科大学八十年史』（以下、『八十年史』と略記）の「序」において、当時の藤井勝也学長が「私立独逸学校は明治十七年四月十五日開校式を挙行している」と述べていることからして、「開校式」と同意です。しかし『八十年史』、そして『京都薬科大学百年史』（以下、『百年史』と略記）においても、残念ながら、4月15日が開校式であったことを証する史料や根拠は何ら示されていません。また、この日に、京都私立独逸学校（以下、独逸学校と略記）創立の画期となりうる何らかの出来事があったことを窺わせる史料などもみられません。私が閲覧できた本学所蔵史料の中にも独逸学校開校に関する記録はなく、本学校地の数度の移転ともなって散逸してしまったとも考えられます。

他方、『八十年史』および『百年史』には、独逸学校創立の際に寄付を寄せられた180余りの個人やグループの芳名録の冒頭部分が掲載されています（写真1）。そこには、「本校設立の旨趣ヲ賛セラレ、金品ヲ義捐（ぎえん）セラレシ諸君ハ、真ニ本校ノ父母ナリ、茲（ここ）ニ謹テ（つつしんで）芳名ヲ記シ、長ク本校ニ留メ、以（もつ）テ高誼（こうぎ）ヲ謝スルト云爾（しかい）う）」の記載とともに、「明治十七年四月廿七日」という日付が記されています。2004（平成16）年の創立120周年のおり、私は『京薬のあゆみとともに—京都薬科大学への道のり—』という小編著をまとめる際に、創立記念日の4月15日と寄附者名簿の日付4月27日とのくい違いに若干の違和感を抱いていました。1919（大正8）年4月15日は、京都薬学専門学校の開校式が挙行された日でしたので、あるいはそれとの混同があったのではないかと考えましたが、当時は外部の図書館や資料館などの施設に残された史料を十分に調査することなく、『京薬のあゆみとともに』では4月15日に京都私立独逸学校が開校されたと記述してしまいました。

一昨年に至り、京薬会の発企によって本学の歴史資料室の開設が具体化されはじめました。さらに、「明治150年」をひかえて、京都府より本学の歴史のうえて画期となる日付を示すようにとの照会がありました。「4月15日」という日付が、本学の前身となる独逸学校の開校式であったこと、あるいはたとえそうではなかったとしても、なんらかの画期となる日であったことを証明できる史料を明示することが、対外的にも求められることになったわけです。

そこで、まず京都府立図書館へ足を運び、新聞記事を調べてみることにしました。幸いにも、10年ほど前とは違い、朝日・毎日・読売各紙の明治期からの記事が検索できるようになっていました。検索の結果、明治17年の朝日新聞紙上に独逸学校開設に関わる記事をいくつか見いだすことができました。そのうちの 하나가、独逸学校の開校式を伝える報道記事です（写真2）。4月29日（火曜日）付紙上「雑報」欄に掲載されたもので、次のように報じられていました（読みやすいように句読点を付し、旧字体を新字体に換え、〔 〕内に補注を加えています）。

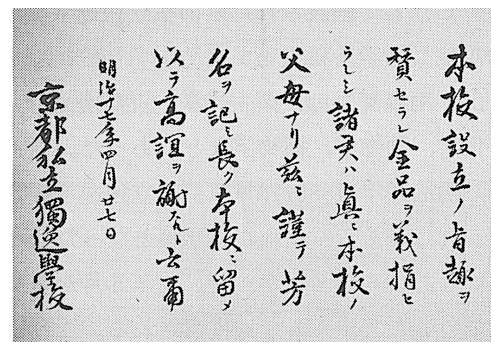


写真1

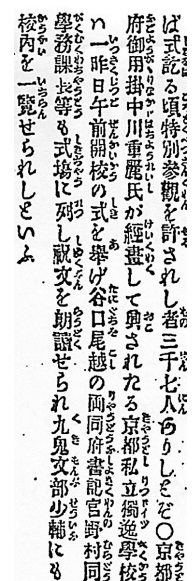


写真2

○京都府御用掛中川重麗氏が経画〔計画の意〕して興されたる京都私立独逸学校は、一昨日午前、開校の式を挙げ、谷口〔起孝〕・尾越〔蕃輔〕の両同府書記官、野村〔彦四郎〕同学務課長等も式場に列し祝文を朗読せられ、九鬼〔隆一〕文部少輔にも校内を一覧せられしといふ。

わずか数行の記事ですが、ここからは京都私立独逸学校設立の中心人物の名前と開校式が挙行された日付、さらに、京都府-当時はまだ「京都市」という自治体はありません-の関係者、そして当時の文部少輔（現在の次官に相当）も臨席したということ、すなわちこの開校式がオフィシャルなものであったことなどを知ることができます。また、独逸学校の開校式が4月27日日曜日の午前中に挙行されたことが明らかになったことで、先の芳名録の日付との整合性もとれることになりました。芳名録は、まさに開校式の日付で作成されていたわけです。

朝日新聞紙上に掲載されたもう一つの記事はこの開校式に向けて「私立京都独逸学校幹事」名義での生徒募集広告です。確認できたのは、開校式のちょうど10日前の4月17日紙上のものからで、以後19日・22日・24日・25日・27日・30日付各紙上に断続的に掲載されています（写真3）。いずれも同文で、下記のようなものです。

本校、今般許可を得て、来二十七日開校し、独逸語学、地理、歴史、羅甸〔ラテン〕文法、理化学、博物学、薬学、数学等を教授す。有志諸君来学あれ。但、校則・教則等は本校に就て見るべし。

明治十七年四月
 京都上京区第二十五組
 （富小路二条上ル）鍛冶屋町
 私立京都独逸学校幹事

こうして、朝日新聞紙上の記事や広告から、独逸学校の開校式が4月27日に挙行されたことが明らかになったわけですが、4月15日に何らかの画期となる出来事はなかったのかということも調べてみる必要がありました。そこで、残存している他の新聞紙も含めてあたってみましたが、相当する記事はみつかりませんでした。他方、京都滋賀新報という現在の京都新聞の前身紙の一つの1884（明治17）年5月7日付紙上に、やはり「私立京都独逸学校幹事」名義で次のような生徒募集広告が掲載されていました（写真4）。

本校、今般許可ヲ得テ、去月二十七日開校ス。有志諸君来学アレ。但、校則・教則ノ詳細ハ本校ニ就テ見ルベシ。其要略左ノ如シ。
 学科 独逸語学 歴史 地理 羅甸文法 理化学 博物学 薬学 数学
 職員 校長 猪子止戈之助 幹事長 半井澄 教員 十三名
 教授時間 午後四時より
 月謝 五十銭 東修〔現在の入学金に相当〕 一円
 京都上京区第二十五組富小路二条上ル鍛冶屋町
 私立京都独逸学校幹事

この独逸学校当事者の募集広告によっても、同校が4月27日に開校されたことがあらためて明らかになったわけです。校長の猪子止戈之助は、当時の京都府の医学学校（現在の京都府立医科大学）副校長で療病院（現在の京都府立医科大学附属病院）副院長を兼務していま

た。また幹事長の半井澄は療病院の初代院長です。なお、1918（大正7）年12月付の「私立京都薬学校沿革」（略）では、猪子は「校主兼名誉校長」と記されています（『百年史』、原本は京都府所蔵）。

ところで、私立学校の場合、何をもって創立記念日とするかはさまざまかと思います。当時は、民間の学校は府県の管轄下に置かれていましたから、まず①設立準備委員会のようなものが組織され、代表者など中心となるメンバーが決定され、施設や備品、教員を確保し、費用を見積もって寄付金を募るなど必要な資金を準備する。そのうえで、②京都でしたら府知事宛に設置許可を申請し、③それに対して許可がおりますと、④学校長以下の幹事の面々が決定されるとともに生徒の募集が行われ、⑤開校式が挙行され、授業が始まります。このように考えますと、⑤の開校式が挙行された日に限られることなく、①から④のいずれも創立記念日の候補日となりえます。④については、すでに見たように朝日新聞の広告による限り4月17日が最初のものとなりますが、これ以前に募集が行われていなかったという確証はありません。他方、①に関する史料の存在は、本学内には今のところ確認されておらず、当時の新聞の残存状況もきわめて悪いため、関係記事の確認はできてい

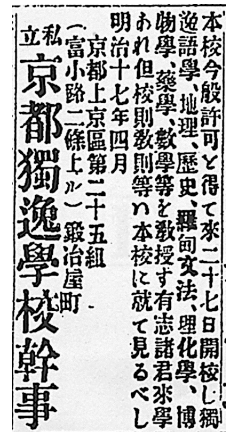


写真3

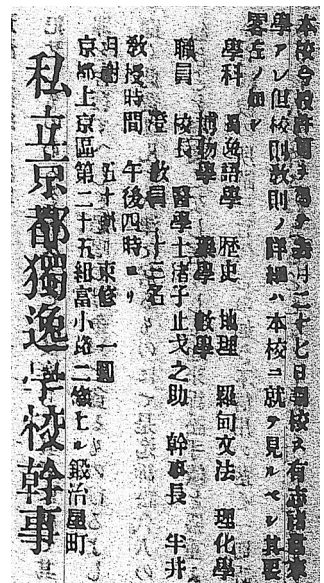


写真4

ません。

他方、②と③は行政とのやりとりに関わるため、関係史料が京都府の機関に所蔵されていないか調べることにしました。地下鉄烏丸線の「北山駅」近く、京都府立大学に隣接して「京都府立京都学・歴史館」という施設があります。旧京都府立総合資料館を改編したもので、京都府関係の行政資料などを所蔵・公開しています。そこで独逸学校設立に関わる行政文書を調べてみました。また、「写真4」に「今般許可ヲ得テ」の記述があることから、京都府へ情報公開請求も行いました。しかし、「明治17年4月」付の『京都私立独逸学校規則』という、最初の学則に相当する史料を見いだしたものの、独逸学校の設立に関わるものは見つかりませんでした。古い行政文書の中には廃棄されたものもあり、長い年月の間に散逸を免れていません。

以上、詳しく説明してきましたように、現時点において、4月15日は独逸学校設立の開校式の日ではなく、また創立記念日にふさわしい何らかの出来事があったことも確認できません。本学の創立記念日として、複数の確実な根拠を示して挙げられる日は開校式が挙行された4月27日以外にありません。しかし、これはネガティブな選択ということではなく、次のようにポジティブに位置づけることができます。

(1) 4月27日は、京都府の関係者や文部少輔も列席した公式な開校式であり、本学の前身校である京都私立独逸学校が公的に認知された日であったと言えます。

(2) 独逸学校の「父母」とされた寄附者たちの芳名録の日付が4月27日であったことは、この日が独逸学校設立者と寄附者たちにとって意義深い日であったと言えます。

50余年間にわたって創立記念日とされてきた4月15日という日は、本学の多くの卒業生のみなさんにとって思い出深い日であると思います。しかしながら、これからは大学の内外に向けて確実な根拠を示して説明することのできる創立記念日であることが求められると考えます。創立記念日の変更にあたって、135年前の独逸学校創立に関わった人々への想いをあらたにすることで、4月27日は私たちにとっても意義深い日となっていくのではないのでしょうか。

【寄稿】平成30年 秋の園遊会にて

Report

天皇、皇后両陛下主催による「秋の園遊会」が11月9日、東京・元赤坂の赤坂御苑で開催され、私は京都薬科大学名誉教授・客員教授としてご招待の榮に浴しました。マスコミ報道の通り、今回が平成では最後の園遊会であり、雨の中で両陛下が各界の功労者ら約1,800人と交流されました。

午後1時から参加者の参加が始まり、広大な御苑内の散策を自由に楽しむことができ、また数カ所に設けられたテント内では料理や茶菓をいただきました。天皇、皇后両陛下は午後2時過ぎに会場にお着きになり、各皇族方も一緒に、その後あらかじめ示された道筋（約400m）をお廻りになりました。私はよくわからないままこの道筋の後寄りに位置し、最前列に立っておりました。この場所



になると巡回が始まって時間が経っていますので、天皇陛下、皇后陛下、皇太子殿下、雅子さま、秋篠宮殿下、紀子さま、など適度な間隔でお歩きになっており、それぞれに直接お話をすることができました。「京都から参りました。京都薬科大学の学長をしておりました。」「薬学教育が6年制になって13年が経ち、現在7期生まで社会に出ています。」「安全・安心の医療を提供で

きるように、全国の薬系大学では質の高い薬剤師の育成に尽力しています。」など薬学・薬剤師の現状について説明申し上げますと、「大変責任の重い仕事ですね。」「6年制になって、そんなに時間が経ちましたか。」などに関心を示していただきました。天皇陛下が近づいてこられると、傘をさすことを差し控えたところ、「濡れますから傘をさしてください。」「前列の方が傘をささないと、後ろの方もさせませんから。」と笑顔で繰り返し申されたことが印象的であり、改めて優しいお人柄を感じた次第です。また、皇后陛下には、平成21年の秋に在位20周年の行事として京都御所にお見えになった時に、京都府薬剤師会の会長としてご招待いただき、薬剤師の役割についてお話ししたことを申し上げましたところ、当時を懐かしく思っておられるご様子でした。

あいにく小雨の中での平成最後の園遊会でありましたが、赤坂御苑の風情を楽しみながら、貴重な体験をさせていただきましたことを報告いたします。

乾 賢一 名誉教授・客員教授



開館日程

2019年1月							2019年2月							2019年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28			24	25	26	27	28	29	30
														31						

8:30-21:00
 10:00-17:00
 休館
 休館= 館内整備・蔵書点検

NEWS 人事

採用

生命薬科学系病態生理学分野 准教授 細木 誠之
 基礎科学系一般教育分野 助教 朝比奈裕子
 (以上 任期：2018. 10. 1～2023. 9. 30)

事務局施設課 課長 中谷 庄吾
 事務局施設課 (勤務場所：薬用植物園)
 事務員 深田 祐輔
 (以上 2018. 9. 1付)

(契約事務職員)

臨床薬学教育研究センター 山中 則子
 (契約期間：2018. 9. 1～2019. 8. 31)

昇任

病態薬科学系薬物治療学分野 准教授 松本健次郎
 (任期：2018. 10. 1～2023. 9. 30)

再任

医療薬科学系臨床薬学分野 教授 西口 工司
 創薬科学系生薬学分野 准教授 中村 誠宏
 (以上 任期：2018. 10. 1～2023. 9. 30)

退職

生命薬科学系衛生化学分野 助教 大石 晃弘
 (2018. 9. 30付)
 以上

あえり

4年次生 水船愛英理さんが「第1回京都廣川書店賞2018」を受賞しました

Report

学生課

9月21日(金)に京都廣川書店賞授賞式が行われ、4年次生の水船愛英理さんが受賞しました。

京都廣川書店賞は、株式会社 京都廣川書店により創設されたもので、学業成績に捉われず、将来、大きな活躍が期待できる学生1名に、返済不要の奨学金と愛学館1階の同社売店のコーヒー券1年分を贈呈し、学生を応援するというユニークな賞です。水船さんは80ページ超におよぶ小説を応募課題として執筆され、その内容や取組姿勢により、将来の活躍が期待される学生として高く評価されたことが受賞理由となりました。



■2018年度フライブルク大学主催夏大学参加者を引率して

ここ10数年にわたりフライブルクでの異文化体験談を参加者に報告してもらってきたが、平成最後のフライブルク大学夏大学体験記をお届けします。

2000(平成12)年に始まった派遣も今回で19回目を迎え、去る8月3日から28日の約1ヶ月間に開講された夏大学が平成最後の派遣となった。今回は数年前に新規開講された夏大学英語コースへの参加が可能となり、久しぶりに定員に程近い17名の本学学生諸君と若手教員2名がフライブルクへ向かいそれぞれが貴重な異文化体験をおさめてきた。

長年実施しているフライブルク大学医学部付属病院の院内薬局見学をはじめ、薬学部の研究室見学、市内の個人薬局の業務視察など本学独自のプログラムにも参加してドイツにおける薬剤師業務の一端をうかがい知ることができたことは本学参加者にとって大きな成果だろう。それに加えてハイデルベルクにある薬事博物館を訪問し、ドイツの薬学の歴史と伝統を学ぶこと

ができたのも貴重な体験だ。

1ヶ月の短い滞在であったが、参加者には今までの人生で味わったことのない魂を揺すぶられるような忘れ得ぬ体験だったに違いない。

この貴重な体験を2人の引率教員と3人の参加学生諸君に綴ってもらった。

2019年度はいよいよ20回目の派遣の年だ。20回目の節目の派遣には、体験談を読み異文化体験に興味を持った人、学生時代に短期留学を志し本学に入学してきた人、知らなかった自分を発見したい人など好奇心に満ち溢れる、より多くの諸君に参加していただくことを期待しています。

ドイツ語・外国文学担当准教授
日本フライブルクアルムニ会会員
桑形 広司

今年は17名(3年次生3名+2年次生14名)が参加し、うち4名は英語クラスを受講しました。例年になく猛暑で、街中を走るBächle(水路)に1滴水がないという、珍しいフライブルク体験となりました。参加者は暑さと慣れない寮生活、積極的に発言する国際色豊かなクラスメイトに囲まれた授業、日本の常識が通じない生活等に当初は戸惑っておりました。しかし、試行錯誤しながら生活に慣れていき、最後には「帰りたくない気持ちも半分」と言いながら、修了証を手にしたときには全員に笑顔が溢れていました。

フライブルク大学薬学部、市内薬局、病院薬剤部の見学では、日本との違いや共通点を中心に熱心に質問していました。特に歴史ある大学の研究室では、レンガ造りの実験台や安全キャビネット(現在も使用されています)を見て感激し、薬局では薬剤師業務の幅の広さに感銘を受けていました。また、ハイデルベルク薬事博物館見学を有志で募集した所、ほぼ全員が参加し、薬学への思いに感激致しました。今後、これらの経験が日本の薬剤師の未来を作っていく材料となれば嬉しく思います。

毎週、目標と到達度を報告してもらいましたが、日が経つごとに目標内容や自己分析がより具体的になり、目標達成のための努力をしていたことを目の当た

りにできたことは教育職員として一番の喜びでありました。留学は、その後の人生を少なからず刺激してくれます。今年の参加者がこの経験を今後活かしてくれることを願うとともに、来年以降も多くの学生が参加し、成長の機会としてくれることを願っています。

臨床薬理学分野 鳥羽 裕恵
薬物動態学分野 河渕 真治



市内薬局見学時の集合写真
(説明してくれた元従業員の方と一緒に薬局前にて)

■ 2年次生 永嶺 沙也佳（ドイツ語クラス）

私は今回のドイツ留学で、「挑戦」することの大切さを実感しました。正直なところサマープログラムの案内を初めて目にしたときは、留学に対する「好奇心」という前向きな気持ちよりも、1ヶ月に渡る海外生活に対する「不安」が大きく、ためらってしまいました。しかし、留学に一步踏み出したことで、多国籍クラスでのドイツ語の勉強はもちろん、ルームメイトや現地の人々との交流、ドイツの病院、薬局、大学の見学など、日本ではできない数多くの経験ができ、とても学ぶことの多い1ヶ月を過ごせました。

フライブルクはフランスやスイスとの国境に近いいため、ドイツ文化だけでなくヨーロッパの多様な文化を肌で感じられたことも、一步踏み出して良かったと思える瞬間でした。英語や留学中学んだドイツ語で、苦戦しながらも現地の人々と意思疎通がとれたことは、これまでの外国語学習に少し自信が付き、今後、更に外国語を勉強しようというモチベーションにつながりました。不安に負けず留学に挑戦して本当に良かったです。

私は留学後、2つの挑戦課題を見つけました。1つ目は「ドイツ語の勉強を続け、将来もう一度ドイツを訪れること」、2つ目は「留学で出会えた人たちとの交流を続け、日常的に海外の出来事に興味を持つこと」です。このような機会を与えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも失敗を恐れず興味のあることに挑戦する姿勢を続けていきたいと思います。



フライブルクの朝市

■ 2年次生 林 里香（ドイツ語クラス）

「こんなところで1ヶ月もやっていけるのだろうか」ドイツ語のみで進行する授業が始まって1日目、真っ先に感じたのは不安でした。しかし、学生の今だからこそできる同世代の外国人生徒との交流や現地の薬局、大学病院、薬学部の研究室の見学等、貴重な体験をし、1ヶ月後には大満足での帰国となりました。

先生やクラスメイトとの対話型授業では、海外からの学生が積極的に発言を繰り返していくのを目の当たりにし、消極的だった私も負けじと前のめりで授業に参加するようになっていったのは、自分でも驚きでした。

週末にはスイスやフランスにも足を伸ばしました。観光計画は一から自分達で立案せねばならず苦心しましたが、それがかえって自信に繋がったと思います。また、フライブルク大学の授業で学んだ知識を、現地の人とのコミュニケーションの中でアウトプットすることができ、達成感も得られました。

今まで様々な課外活動などに対し、尻込みをして行動に移せず、もどかしい思いをしてきた私ですが、今回思い切ってサマープログラムに参加したことで、非常に内容の濃い1ヶ月を過ごすことができました。こ

れからは留学中に身につけた積極性を活かし、興味のあることにどんどん挑戦して行きたいと思います。

最後になりましたが、充実した1ヶ月を過ごせたのは、引率の先生方や留学前からサポートをくださった方々のおかげです。貴重な時間を一緒に過ごしてくれたメンバー達にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



週末に訪れたフランス・コルマルにて

■ 2年次生 元川 典子（英語クラス）

友達、思い出、やる気。2018年の夏、私はたくさんものを得ました。

前期試験を終え休む間も無く到着したフライブルク。最初の1週間は、慣れない海外での寮生活、冷房なしの猛暑に、正直毎日のように日本に帰りたと思っています。それでも大学での授業はとても面白く、拙い英語ながらも色々な国から来ているクラスメイトと話すのが楽しくて仕方がなかったです。生活に慣れ始めた2週目からは自分達で計画し、週末にチューリッヒやパリ、ベネチアなどに行きました。携帯電話も満足に使えない中、案内所や地元の方と英語でやりとりをして、やっと目的地に着いた時には、景色に感動すると同時に、達成感でいっぱいでした。3週目以降は、最早日本に帰りたくない程フライブルクでの生活が気に入っていました。クラスメイトたちとカフェや昼食で、互いの夢などたくさんのお話をし、同世代の学生として感銘を受け、刺激をもらいました。また京葉からの英語コースへの参加は今年度が初めてということでしたが、最終試験ではトップの成績を修めることができ、とても嬉しかったです。

先生やクラスメイトに卒業式で書いてもらったメッセージを読み返す度、普通の海外旅行では味わえない、貴重な経験をさせてもらえたのだ、行って良かった、と心から思います。このような機会を下さった引率の先生方、国際交流推進室の方、支えてくれ一緒に頑張ったメンバー、行かせてくれた両親には感謝できません。本当にありがとうございました。



授業風景

2018年10月にオープンキャンパスを開催しました

Event

入試課

2018年10月28日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。秋晴れの天候のなか、372名（前年比114%）の参加者がありました。会場の創立130周年記念館では「学長メッセージ」、「大学紹介（入試委員長）」、「在学生の話」、「卒業生の話」を行い、その後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、6年次生の安藤翔太さんに本学を志望した理由や分野での研究活動を通じて成長できたことなどご自身の体験を通した話がありました。

「卒業生の話」では、京都府健康福祉部薬務課に勤務

さぶりともしこ

されている佐分利智子様をお招きして、本学の魅力や本学を選んだ理由、本学での経験が今の仕事に活かされていること、公務員の薬剤師としての仕事などをわかりやすくお話していただきました。「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館にある6分野及び図書館の協力を得て見学を行いました。見学誘導は学生広報スタッフが担当し、参加者と本学在学生が交流できる場にもなりました。「相談会」は、本学の職員と在学生が相談員となり、74名（前年比106%）の相談者がありました。相談内容は、入学試験や進路、奨

学金、学生生活など様々で、相談会参加者がとても熱心に質問や相談をされる姿が印象的でした。

今後も参加者の方々に本学の教育・研究環境を知っていただくため、オープンキャンパスをより一層充実したものにして参ります。

【参加者内訳】

高校1年生：50名、高校2年生：85名、
高校3年生：55名、既卒生：6名、付添者：176名



大学紹介の様子

第24回 京都薬科大学 公開講座 開催

Event

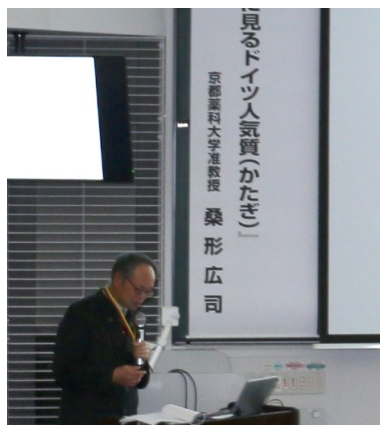
生涯教育センター

2018年10月20日（土）、本学愛学館A31講義室及び薬用植物園御陵園において、「第24回 京都薬科大学 公開講座」を開催しました。参加者97名と、台風に見舞われた昨年の約2倍の来場者で盛況でした。

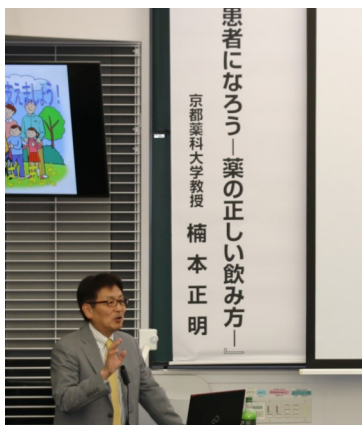
第一部は、桑形広司准教授による講演「人名に見るドイツ人氣質（かたぎ）」、楠本正明教授による講演「賢い患者になろうー薬の正しい飲み方ー」の2講演を行いました。珍しいジャンルや身近なテーマに、参加者からは「わかりやすく勉強になった」「関心のあるテーマで実践的にためになった」との声が寄せられました。

第二部は薬用植物園御陵園の見学を行いました。本学教員や学生による薬草解説が毎年好評の見学会で、今年も、説明を熱心に聞かれる参加者の姿が印象的でした。アンケートでも「よく耳にする漢方生薬の説明を聞いて楽しかった」「わかりやすく丁寧に教えてもらえて良かった」「違う季節にも来てみたい」との声が多数でした。

天候にも恵まれ、参加者の皆様には秋の一時を楽しんでいただけたと思います。講師の先生方および薬用植物園関係者の皆様のご協力のもと、本年も無事に開催できましたことを心より御礼申し上げます。



桑形広司 准教授



楠本正明 教授



薬用植物園御陵園の見学

名古屋市中消防署長から感謝状が贈られました

Report

臨床薬学教育研究センター長

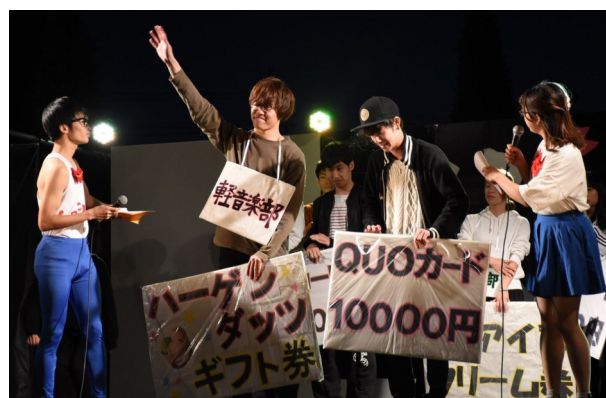
臨床薬学教育研究センターの^{たかし}今西孝至先生が、出張中に名古屋市内の駅構内で突然意識不明となった方に対してAEDを使用し迅速かつ的確な応急処置をされました。

今西講師は薬剤師経験のある実務系教員ですが救急救命士の資格も有しており、その経験が人命救助のお役に立てたことは大変喜ばしいことであり、このたび名古屋市中消防署長から感謝状が贈られました。



今年の京菓祭も無事に終わることができました。京菓祭の開催にあたって、ご理解、ご協力頂きました学校関係者の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

まず、多くの学生・近隣住民の方に来て頂き、楽しんでもらえる学園祭を作るということを目標にし、そのために従来とは多少なりとも違ったことをして、いろんな人に興味を持ってもらえるような学園祭にしようと思いました。そこで今年は新しく「メイク講座」という女性の集客を期待できるコーナーを企画しました。やはり初めての試みということもあり、想定外のトラブルなどの不安等もありましたが、満員御礼で当日もトラブルなく行うことができた為、目標の達成に少なからず寄与できたのではないかと思います。また、昨年の先輩方から始まった、ロックバンドによる記念館でのライブも引き続き行い、宣伝に力を入れたところ、昨年よりより多くの集客に成功したので来年以降もぜひ続けてほしいと思っています。



野外ステージの様子

この1年間、特に実行委員の作業期間である9月中旬から京菓祭当日までの1か月半は、京菓祭の運営に携わる3年次生だけでなく、ステージ企画の準備をする1・2年次生も疲労とストレスの溜まる時期だったと思います。しかし、誰一人途中で辞めることなく、最後まで実行委員全員で協力して頑張ってくれました。この時私は、疲労やストレスの溜まるこの期間を共有することにより、各自が身勝手な行動・発言をするのではなく、自分を含め全体を客観視し、「今辛い状況にいるのは自分だけではない、同じ団体に所属する仲間達も頑張っている」という気持ちを持ち続けられ、仲間を思いやる事のできる絆の深い団体を作れるのだと感じました。ここまで、

委員長として感じたことを述べさせていただいていますが、私がこうやって委員長をやり通すことができたのは、紛れもなく同年次生の仲間達のおかげです。自分達の手本となってくださった先輩方、自分達についてきてくれた後輩たちもちろんですが、やはり自分の一番身近な存在でいてくれた同年次生の仲間達には本当に感謝しかありません。

京菓祭実行委員会に所属した3年間を振り返ると、1年次生の頃はただただ先輩方に楽しませていただく立場でした。疲れが溜まっていたはずなのにそれを表面上に出さず、いつも私達に楽しく作業することを教えてくださいました。そのような先輩方の姿を見て、2年次生になってからは後輩達に淡々と作業の指示だけするのではなく、先輩方から教えていただいた様に楽しく作業することを教え、それと同時に京菓祭の運営に携わる作業をしている先輩方を見て知識を吸収してきました。そして、自分達が3年次生となってからは、今までより責任感を強く持ち続け、自分の作業で手一杯になった時でもそれを表面上に出すようなことはせず、周りにしんどそうな人がいたらその人から話を聞いたりするなどしてサポートをすることもできました。こうした3年間があったからこそ、2018年度の京菓祭が終わると同時に、全てやり遂げたという達成感で胸が熱くなりました。皆の期待に十分応えることができたかは分かりませんが、私自身はとても充実した1年間を過ごすことができました。そして3年間の実行委員会での生活はとても良い思い出になりました。

改めまして、お世話になった学校関係者の皆様、近隣の皆様、本当にありがとうございました。また今後とも、京菓祭および京菓祭実行委員会を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。



京菓祭実行委員メンバー

昨年度に引き続いて、今年度も京都橘大学と合同で多職種連携教育(Interprofessional Education; IPE)研修会を開催しました。今年度で3回目となりますが、昨年度と違い、京都橘大学健康科学部理学療法学科の学生も加わり、薬学、看護学、理学療法学の3領域の学生が一堂に会した初めてのIPE研修会になりました。IPEの目的は「①医療チームの一員として自分の専門職の役割を理解する」、「②他の専門職の視点、考え方、役割を学ぶ」ことであり、異なった医療教育を受けている薬学生・看護学生・理学療法学学生が共に話し合い（SGD）を通じて多職種連携の考え方を学び、各職種にはどのような強みや弱みがあって、各職種が協働してどのような形でチーム医療に貢献できるのかを理解することが大きな目的です。



SGDの様子

本年度の研修会に参加した学生は43名（京都薬科大学：5年次生16名、京都橘大学看護学部：4年次生15名、京都橘大学健康科学部理学療法学科：4年次生12名）でした。研修は昨年と同様に「心原性脳梗塞により片麻痺になった患者に対する在宅でのチーム医療連携」についてのシナリオを使用しました。実際に研修会を行ってみると、やはり昨年と同様に参加した学生達はこれまで異なった医療教育を受けてきているため、それぞれの立場からの意見の違いが明確になり、

それぞれの意見をうまく統合させた結論を導き出すのに苦労している様子でした。ただ、SGDの様子を見ている限り、非常に充実したすばらしいSGDをしていると感じ、学生から勉強させられる場面もありました。本研修終了後の学生達のアンケートを見ると、「同じシナリオであるにも関わらず、着眼点が異なり、普段では捉えない視点が勉強になった」という意見を多く聞きました。また、「後輩のためにも今後もこのような研修会は続けて行って欲しい」という要望も多くありました。

これからの医療は“病院完結型医療”から“地域連携型医療”に必ずシフトします。これに対応するためには、治療（cure）だけでは不十分であり、発症後の介護・福祉も含めたケア（care）も重要です。そのためには、自らの専門的能力だけでなく、他職種の役割を理解した上で、多様な専門職と協働し、患者や利用者のニーズに応じていく実践的な能力を身に付け、医療現場で働き始めた当初から円滑なチーム医療を実践できるように学生時代からしっかり多職種連携について理解しておくことが重要であり、非常に大切な研修会であると考えています。

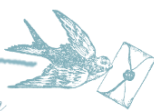


研修を終えてにこやかな参加者一同

各種セミナーの報告書

これまでに開催されたセミナーにおいて、本誌に未掲載の報告書は以下よりご覧いただけます。

セミナー名	開催日	詳細	URL
文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」 2018年度Annual Meeting	9月13日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project2/pdf/2018venture_report.pdf
薬学研究者養成セミナー	10月25日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20181025_report.pdf
卒後薬剤師セミナー - 肺がん -	11月11日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20181111_report.pdf



やりたい仕事

山本 和宏



2007年 学部卒業
(病院薬学教室
現：臨床薬学分野)

神戸大学医学部附属病院薬剤部
(神戸大学大学院医学研究科薬
剤学分野) 特命講師

私は、大学に入学する前から病院薬剤師になりたいという思いを持っていました。母親が病院薬剤師をしていたというそれだけの理由ですが、実際は、深く考えることなく大学時代はクラブ活動に明け暮れていました。大学3年次生まで進むと研究室配属の時期となり、そこで研究と出会いました。当時は、化合物同士の化学反応性や細胞株による生物応答性、動物に投与した際の全身応答と個体のばらつきを実験により表現されることに感動しながら、研究に没頭する毎日でした。

進路を考える時期になると、私は研究の楽しさと病院薬剤師へのあこがれから、当時の修士課程臨床薬学専攻に進学することになりました。大学院の臨床研修を経験することで、臨床データの解釈の難しさ、患者個々のばらつきを実感し、これまで抱いていた単純な病院薬剤師像とは異なる新しい将来像が自分の中に芽生えました。簡潔に言うと、基礎研

究・臨床研究・病院薬剤師業務・教育の全てをやりたい、というわがままな着想に至ったわけです。この大学在籍中に膨れ上がった「やりたい仕事」の全てができる職場を求め、就職は臨床研修でもお世話になった神戸大学医学部附属病院に決めました。面接でも、「私は臨床現場で研究をやりたい」と明言しました。

現在は、病院薬剤師と医学部教員を兼任しており、医学薬学の研究・教育・業務に携わっています。研究では、薬剤部職員の様々な臨床研究の取りまとめ、研究デザインや成果発表のサポートを行っています。また、診療科との共同研究や薬剤師主導型の臨床試験も実施しており、医師の協力のもと、薬剤師独自の目線によるエビデンスの構築を目指して日々取り組んでいます。さらに、企業との共同研究では基礎研究も並行して行います。一方で、医学部生・薬学部生の教育と薬剤部の業務のマネジメントにも関わらせてもらい、組織としての新たな薬剤部業務を構築する機会も頂きます。

みなさんの「やりたい仕事」は何でしょうか。私は、病院薬剤師になりたいと職種を決めていましたが、「将来は病院薬剤師で研究をしたい」と言うと、当時は先輩方や先生からよく笑われました。しかし、今は「やりたい仕事」に就かせてもらい、忙しくも充実した日々を過ごしています。職種にこだわらず、「やりたい仕事」の内容を見つけることが大切です。みなさんがそれぞれの「やりたい仕事」でご活躍されることを祈っています。

第104回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

- 試験日** 2019年2月23日（土）及び同月24日（日）
- 試験地** 北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
- 試験科目** [必須問題試験]
物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
- [一般問題試験]
- ・薬学理論問題試験
物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理
 - ・薬学実践問題試験
物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

合格発表 2019年3月25日（月）午後2時に厚生労働省本省及び各地の薬剤師国家試験運営臨時事務所に、受験地及び受験番号を掲示して発表するほか、合格者に対して合格証書を郵送されます。

シラバスにも一部掲載されているように、2018年度後期の試験日程は下表のとおりです。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）をよく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試験	試験期間	合格発表	受験手続日
6	アドバンスト薬学 本試験	1月9日(水) 1月10日(木)	1月19日(金)17:00～ 1月24日(木)24:00 Webによる公開	—
	アドバンスト薬学 再試験	1月30日(水)～ 1月31日(木)	卒業査定会[2/14(木)]後 成績通知書を配付	1/21(月)・1/22(火)
4	後期試験	1月16日(水)～ 1月18日(金)	1月28日(月)17:00～ 2月3日(日)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月5日(火)～ 2月8日(金)	2月15日(金)17:00～ 2月19日(火)24:00 Webによる公開	1/29(火)・1/30(水)
	前・後期再試験Ⅱ	2月21日(木)～ 2月28日(木)	進級査定会[3/19(火)]後 成績通知書を配付	前期科目:1/29(火)・1/30(水)* 後期科目:2/18(月)・2/19(火)
	OSCE本試験	12月15日(土) 12月16日(日)	別途掲示告知	—
	OSCE追・再試験	3月7日(木)	進級査定会[3/19(火)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
	CBT本試験	1月24日(木) 1月25日(金)	別途掲示告知	—
	CBT追・再試験	3月5日(火)	進級査定会[3/19(火)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
1～3	後期試験	1月18日(金)～ 1月28日(月)	2月12日(火)～ 〔1年次 15:00〕 〔2年次 15:30〕 〔3年次 16:00〕 2月15日(金)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月21日(木)～ 3月28日(木)	進級査定会[3/19(火)]後 成績通知書を配付	2/13(水)・2/14(木)

*4年次前期科目の再試験Ⅱと後期再試験の受験手続を同時に行うので、該当者は注意してください。

2018年度の教育後援会総会が、10月6日（土）13時からT31講義室に於いて開催されました。台風が近づいており、あいにくの空模様ではありましたが、144名のご父母にご参加いただきました。

はじめに、謝会長、土屋理事長の挨拶があり、後藤学長から大学の近況等について説明が行われ、その後議事に移りました。

議事については、2017年度決算と2018年度事業計画案・予算案について報告が行われ、2018年度予算については下表のとおり承認されました。なお、2018年度の新たな取り組みとして、従来、課外講座としてTOEICテスト対策講座のみ開講しておりましたが、今年度よりTOEICに限らない英語力向上のための各種講座を開講します。教育後援会において受講費の一部を補助いたしますので、学生は低負担にて講座を受講することが可能です。

また、新入生啓発支援事業として、日常に潜む身近

なトラブルや悪質商法に関する対策を記載した「くらしの豆知識」の贈呈・配布を行います。

議事の最後に、会長の交代があり、清水副会長が新会長として就任され、新副会長には、岡本幹事（2018年度入学生父母幹事）が就任されました。

議事後、学生部長の上野教授から「本学の学生生活について」、教務部長の栄田教授から「本学の薬学教育について」、進路支援部長の安井教授から「本学の就職支援について」の講演が行われ、最後に西口副会長より閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

参加したご父母からは、「大学に対する期待と希望、夢がますます強まった」、「教育後援会がどのようなサポートをしているかがわかった」などの感想を頂き、概ね満足いただけた内容となりました。

来年度も同時期での開催を予定しております。日程が決まり次第、改めてご案内いたしますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

●2018年度教育後援会予算（一般会計）

項目	予算額	使 途
学生生活支援事業	1,559,000	学生教育研究災害傷害保険料補助
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金
	150,000	弔慰金
	1,400,000	課外講座受講料補助（学内で開講する課外講座の受講料の一部を補助）
	200,000	一般図書の寄贈
	600,000	卒業祝賀会への協賛
	1,128,000	卒業記念品の贈呈
	136,080	新入生啓発支援
小 計	6,373,080	
父母対象事業	600,000	会合費・事務費・郵送料
	1,000,000	学内広報誌KPUNews郵送料
小 計	1,600,000	
教育研究支援事業	923,200	分子模型の贈呈（2019年度新入生対象）
	1,862,000	参考書「治療薬マニュアル」の贈呈（2019年度4年次生対象）
	1,450,000	長期実務実習に向けた追加ワクチン接種代
	900,000	白衣授与（2019年度5年次生対象）
小 計	5,135,200	
予備費	200,000	
積立金	1,000,000	将来の各種事業に向けた積立金
支出合計	14,308,280	

将来の明確なキャリアビジョンはありますか？

現在、薬業界ではパラダイムシフトが起こっています。それに伴い薬剤師の職能や在り方も変革し、薬剤師免許取得後も生涯にわたり「基礎的な科学力」「薬物療法や地域医療における実践的な能力」等の資質をさらに磨くべく自己研鑽を積むことが必須となります。

自分は患者のためにどんな医療人になりたいかの未来予想図を描き、生涯研修プログラムを活用して、思った通りに叶えられていくよう願っています。

【生涯研修プログラム】本学学生の聴講は無料ですので、ふるってご参加ください。(参加方法は表下部をご参照ください。)

プログラム名 (定員)	開催日時	テーマ/担当講師 ※演題は変更される場合があります	単位 (G24)	受講料	申込 受付期間
*1) 「患者視点に 立つた薬物療法」 基礎薬学と経済性 のために」 (360名)	第1回 5/19(日) 講演	10:00~11:30 <90分> 認知症診療の現状と展望 札幌医科大学医学部 神経内科学講座 教授 下濱 俊 先生	3	3日間 12,000円	2019年 3/1(金)~5/6(月)
		12:30~14:00 <90分> アルツハイマー病に対する新規治療法開発に向けた基礎研究の動向 京都薬科大学 統合薬科学系 教授 高田 和幸 先生			
		14:15~15:45 <90分> これからの在宅チーム医療 株式会社ゆうホールディングス 教育研修部 部長 小林 篤史 先生			
	第2回 6/9(日) 講演	10:00~11:30 <90分> 地域連携によるポリファーマシー対策 宝塚市立病院 薬剤部 部長 吉岡 睦展 先生	3		
		12:30~14:00 <90分> 脂質異常症治療の現状 康生会武田病院 循環器センター 部長 木下 法之 先生			
		14:15~15:45 <90分> 病態と治療薬がみえるリポタンパク質代謝の異常 京都薬科大学 病態生化学分野 教授 秋葉 聡 先生			
	第3回 7/7(日) 講演	10:00~11:30 <90分> 日常診療でみる様々な精神疾患と治療薬 国澤こころのクリニック 院長 国澤 正寛 先生	3		
		12:30~14:00 <90分> 薬剤費上昇抑制における薬剤師の役割 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授 中村 洋 先生			
		14:15~15:45 <90分> 地域フォーミュラリーを正しく理解するために 昭和大学統括薬剤部長、病院薬剤学講座 教授 佐々木 忠徳 先生			
*1) 「入門」 講義 (100名)	4/21(日) 10:00~16:00 <280分>	多職種連携を想定した薬の適正使用につなげるフィジカルアセスメント 1. 総論「医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう」 2. 疾病の基礎「患者が示すバイタルサインと症候から処方提案しよう」 JCHO 京都鞍馬口医療センター 血液内科 医師 淵田真一先生 JCHO 京都鞍馬口医療センター 看護師 門田典子先生 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 医師 細木誠之先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 薬剤師 救急救命士 今西孝至先生	3	5,000円	2019年 2/20(水)~4/8(月)
	*2) 「アドバンス」 実習 (各20名)	5/26(日) 9:30~16:00 <315分> 11/17(日) 9:30~16:00 <315分>	臨こう！薬剤師だから気付けよう！フィジカルアセスメント推論力 1. (講義・実習)患者のバイタルサイン情報収集手技の習得 2. (SGD)症例検討・発表 3. (事例紹介)私が行っているフィジカルアセスメント JCHO 京都鞍馬口医療センター 血液内科 医師 淵田真一先生 JCHO 京都鞍馬口医療センター 看護師 門田典子先生 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 医師 細木誠之先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 薬剤師 救急救命士 今西孝至先生	3.5 3.5	10,000円 10,000円
*1) 漢方講座 (70名)	特別公開講座 8/25(日)、9/8(日) 10/13(日)、12/8(日) 全4回 講義 <300分/日>	<詳細未定> 京都漢方研究会の特別講演 <詳細未定>対象：漢方治療に関心のある薬剤師 テーマ：10:00-11:40 入門的内容、12:30-14:10 薬剤師に役立つ内容、 14:20-16:00 医師からの臨床症例	なし	無料	事前申込不要 2019年 6/5(水)~7/29(月)
*2) 臨床研究支援 セミナー 講義、PC演習 (50名)	9/8(日) 12:00~17:00 <270分>	薬剤師による臨床研究～計画の立て方と研究の進め方の実際～ (講義・討論)薬剤師による臨床研究の基礎知識、計画立案と研究の実際例 (PC演習)臨床研究のためのデータ解析「数値の見方、統計的評価と結果の解釈」 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長・教授 矢野義孝先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 松村子佳子先生 京都薬科大学 情報処理教育研究センター長・教授 藤原洋一先生 京都薬科大学 情報処理教育研究センター 講師 石川誠司先生	3	5,000円	2019年 6/5(水)~8/26(月)
eラーニング講座 WEB配信	2019年11/1(金) ~2020年1/31(金)	本学で開催した2017~2019年度「卒後教育講座」を収録、配信	24 予定	15,000円	2019年 8/28(水)~ 10/21(月)
*2) 実務支援 セミナー 実習 (20名)	2020年2/23(日) 10:00~16:30予定 <330分>	在宅医療を見据えた注射薬の無菌混合調製 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 本橋 秀之 先生他	3.5 予定	5,000円	2019年 12/4(水)~2020年 2/10(月)

【参加方法】本学学生の無料聴講について

*1) 卒後教育講座、フィジカルアセスメント講座(入門)、漢方講座：事前にメールにて生涯教育センターにお申込みください。

*2) フィジカルアセスメントセミナー(アドバンス)、臨床研究支援セミナー、実務支援セミナー：申込受付期間終了後、定員に空きがある場合のみ参加可能です。事前にメールまたは電話で生涯教育センターにお問合せください。

【公開講座】

プログラム名	時間	テーマ	単位	受講料	事前申込
第25回公開講座	10/19(土)13:00~16:30	講演、薬用植物園御陵園見学	なし	無料	不要

*詳細はホームページ (<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>) をご参照ください。

*プログラム内容等は変更される場合があります。

■お問合せ先：京都薬科大学生涯教育センター

E-mail : skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

TEL : 075-595-4677 (平日 10:00~16:00)

FAX : 075-595-4683 (24時間受付)



作品名 『碧釉花瓶』
作者 谷口良三
規格 高さ185mm
周囲628mm

谷口良三氏は、京焼清水焼の業界に携わっている人で知らない人はいないほどの有名人であるが、本作品を本学が所蔵するに至った経緯等の記録は残されていない。少なくとも本学が購入したものではないことは確かであるため、本学関係者から寄贈された可能性が高いと思われる。

谷口良三（たにぐち りょうぞう）1926～1996年 京都市出身 陶芸家 東山区五条坂で陶磁器卸問屋「谷寛」の次男として生まれる。京都市立第二工業学校（京都市立伏見工業高等学校、現京都市立京都工学院高等学校）卒業後、一時日本製鉄（終戦後に解体）に勤務していたが、兵役除隊後に本格的に陶芸を始める。その後、日展での入選をはじめ、数々の受賞を重ねた昭和から平成にかけて活躍した陶芸家。碧釉（へきゆう）、碧彩（へきさい）と呼ばれる独自の色合いの陶磁器を制作し、蠟抜きによる技法で複雑な文様を見事に表現した作品で、京焼に新風を吹き込んだ陶芸家として知られている。1970年京都府立陶工訓練校の校長に任命され、後進の指導にあたりながら創作活動を続ける。1971年日展審査員、日展評議員。1995年第27回日展にて内閣総理大臣賞受賞。

運動系クラブ 応急手当講習会

Report

学生課

学生課医務室では、夏季休暇中の8月から9月初旬にかけて、運動系クラブ部員を対象とした「応急手当講習会」を実施しました。熱中症対策、怪我の処置、傷病者搬送方法の習得および正しい応急手当を学び、各クラブの救護力向上を図るため、今年度新たに企画したものです。医務室スタッフが各クラブの活動場所である、グラウンドや体育館など、または講義室に出向き、1回につき30分～1時間程度で行いました。

クラブの活動内容に合わせて、前半は熱中症や捻挫・RICE処置※、頭部外傷について、パワーポイントなどを使用して説明を聞いてもらいました。

後半は実習として、三角巾による腕と足の固定、包帯による足首固定、スクープストレッチャーを使った安全な傷病者搬送の体験を、実際に部員の皆さんに行ってもらいました。患者役と手当てをする役を交代で行うなど、積極的に参加していただきました。

学生課医務室では、希望の講習会や勉強会等がありましたら実施したいと考えております。内容や実施場所等はお相談に応じますので、是非ご連絡ください。

※RICE処置…Rest(安静)、Ice(冷却)、Compression(圧迫)、Elevation(挙上)と応急処置時に必要な4つの処置のこと。



包帯による足首固定方法の実習



グラウンドでの講習会



スクープストレッチャー使用の実習

■ 次世代を担う創薬医療薬理シンポジウムにおいて優秀ポスター発表賞を受賞

2018年8月25日に福岡で開催された「次世代を担う創薬医療薬理シンポジウム」において、薬物治療学分野6年次生の谷口由実さんが優秀ポスター発表賞を受賞しました。

受賞者：薬物治療学分野

演題：酸味受容における、温度感受性TRPV4チャネルの機能解明

演者：谷口由実、松本健次郎、大石晃弘、長澤一樹、富永真琴、加藤伸一

■ The 2nd Joint Meeting of the 24th International Society of Fibrinolysis and Proteolysis and the 17th Plasminogen Activation WorkshopにおいてTravel Awardを受賞

2018年9月3日～7日にエジンバラ (UK)で開催された「The 2nd Joint Meeting of the 24th International Society of Fibrinolysis and Proteolysis and the 17th Plasminogen Activation Workshop」において、病態生化学分野の河下映里助教がTravel Awardを受賞しました。

受賞者：病態生化学分野 助教 河下 映里

演題： α 2-Antiplasmin as a potential mediator contributing to cognitive function and brain aging

演者：河下映里¹、石原慶一¹、榎本悠紀¹、宮地晴子¹、松尾理²、秋葉聡¹

(¹京都薬科大学・病態生化学分野, ²近畿大学医学部)

■ 第41回日本高血圧学会総会において女性研究者奨励賞を受賞

2018年9月14日～16日に旭川で開催された「第41回日本高血圧学会総会」において、臨床薬理学分野の鳥羽裕恵助教が女性研究者奨励賞を受賞しました。

受賞者：臨床薬理学分野 助教 鳥羽 裕恵

演題：DOCA食塩負荷高血圧モデルラットの腎障害の機序にSPARCとADAMTS1増大が関与している

演者：鳥羽 裕恵



■ 第20回日本神経消消器病学会において並木賞を受賞

2018年10月5日～6日に名古屋で開催された「第20回日本神経消消器病学会」において、薬物治療学分野の松本健次郎准教授が並木賞を受賞しました。

受賞者：薬物治療学分野 准教授 松本 健次郎

演題：幼少期社会的敗北ストレスを用いた、過敏性腸症候群モデルの検討

演者：松本健次郎、堀江俊治、加藤伸一

■ 第22回天然薬物の開発と応用シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞

2018年10月7日～8日に熊本大学で開催された「第22回天然薬物の開発と応用シンポジウム」において、生薬学分野博士課程2年次生の笠香織さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：生薬学分野 博士課程2年次生 笠 香織

演題：ショウガ主要成分 [6]-gingerolの絶対立体構造の違いによる一酸化窒素産生抑制作用の検討

演者：笠 香織、中村誠宏、中田 葵、松本朋子、中嶋聡一、小川慶子、深谷 匡、月岡淳子、松田久司

■ 日本環境変異原学会第47回大会において、ベストプレゼンテーション賞(秦野賞)を受賞

2018年11月1日・2日に京都(京都大学)で開催された「日本環境変異原学会第47回大会」において、公衆衛生学分野の松本崇宏助教がベストプレゼンテーション賞(秦野賞)を受賞しました。

受賞者：公衆衛生学分野 助教 松本 崇宏

演題：Lansium domesticum 葉部からの抗変異原性テルペノイドの探索研究

演者：松本崇宏¹、北川翔大¹、Stephen Teo¹、穴井祐佳¹、今堀大輔¹、Haji Sapuan bin Ahmad²、渡辺 徹志¹ (¹京都薬大, ²Forest Department Sarawak)

■日本薬学会近畿支部総会・大会において本学の学生7名がポスター賞を受賞

2018年10月13日に姫路獨協大学で開催された「第68回日本薬学会近畿支部総会・大会」において、本学の学生7名がポスター賞を受賞しました。

受賞者：薬品製造学分野 4年次生 今井 麻友香

演題：不斉アルキニル化反応を鍵反応とするオキサゾリジノン誘導体のワンポット合成とその絶対配置の決定

演者：今井麻友香、高嶋紗希、原田真規、田村雄太、利光博至、田中結衣、松村優太、山崎莉葉、竹下怜汰、岩崎宏樹、山下正行、小島直人

受賞者：生薬学分野 博士課程3年次生 矢野 真実子

演題：指甲花花部および枝部の特徴成分含量の比較と神経様細胞分化促進作用

演者：矢野真実子¹、中嶋聡一¹、尾田好美^{1,2}、中村誠宏¹、松田久司¹
(¹京都薬大、²エヌ・ティー・エイチ 研)

受賞者：薬品物理化学分野 4年次生 中川 美穂

演題：Iowa変異型アポA-Iのアミロイド形成過程における各線維化領域の役割

演者：中川美穂¹、藤田かほ¹、堀内爽加¹、水口智晴^{1,2}、扇田隆司¹、斎藤博幸¹ (¹京都薬大、²徳島大院)

受賞者：薬品分析学分野 6年次生 永野 雅之

演題：ケルセチン封入温度応答性脂質ナノエマルジョンの脂質流動性と細胞死誘導の評価

演者：永野雅之¹、武上茂彦¹、齊藤洋平²、小西敦子¹、渡邊玲菜¹、中山祐治²、北出達也¹
(¹京都薬大 薬品分析学分野、²京都薬大 生化学分野)

受賞者：生化学分野 5年次生 萩野 真理

演題：v-Src は Cdk1 リン酸化を介して抗がん剤感受性を低下させる

演者：萩野真理¹、堀内麻利安¹、久家貴寿¹、齊藤洋平¹、山口直人²、中山祐治¹ (¹京都薬大、²千葉大院薬)

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 鶴見 さやか

演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスにコードされるORF17のプロテアーゼ機能はウイルス産生に必須である

演者：鶴見さやか、渡部匡史、藤室雅弘

受賞者：薬剤学分野 5年次生 秋元 昂燿

演題：アスパラギン酸修飾脂質ナノキャリアを用いた骨ターゲティング型DDSの開発

演者：秋元昂燿¹、勝見英正¹、山下修吾¹、森下将輝¹、坂根稔康²、山本 昌¹ (¹京都薬大、²神戸薬大)

■2018米国薬学会年会において Best Abstract Awardを受賞

2018年11月4～7日に米国ワシントンD.C.で開催された2018米国薬学会年会 (2018 Annual Meeting of American Association of Pharmaceutical Scientists (AAPS): Pharm Sci 360) において、薬剤学分野の研究発表が2018 AAPS Best Abstract Awardを受賞しました。



受賞者：薬剤学分野 博士課程4年次 堺 香輔

演題：Development of sulfo-albumin as a macromolecular hydrogen sulfide prodrug for the treatment of reactive oxygen species-mediated disease

演者：Kosuke Sakai, Hidemasa Katsumi, Mayu Sugiura, Ayaka Tamba, Kentaro Kamano, Kiyu Yamauchi, Yosui Tamura, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto (Department of Biopharmaceutics, Kyoto Pharmaceutical University)

受賞者：薬剤学分野 准教授 勝見英正

演題：PEGylated aspartic acid modified liposome as a bone-targeting carrier for the delivery of paclitaxel and treatment of bone metastasis

演者：Hidemasa Katsumi, Shugo Yamashita, Nozomi Hibino, Yugo Isobe, Yumiko Yagi, Yuka Tanaka, Saki Yamada, Toshiyasu Sakane, and Akira Yamamoto (Department of Biopharmaceutics, Kyoto Pharmaceutical University)

■4大学連携研究フォーラムにおいて本学の学生2名が優秀賞を受賞

2018年11月20日に京都府立医科大学で開催された「第8回4大学連携研究フォーラム」ポスターセッションにおいて、本学の学生2名が優秀賞を受賞しました。

受賞者：薬品物理化学分野 古谷 優樹

演題：アミロイド構造を識別可能な新規モノクローナル抗体の開発

受賞者：臨床腫瘍学分野 河野 雪那

演題：脳腫瘍幹細胞マウスモデルを用いたアセトゲニン誘導体新規がん治療薬開発

基礎演習（1年次科目）の学外活動の一環で、地域の小学校に訪問して薬物乱用防止教室を開催しました。

薬物乱用の問題が若年化する昨今、小学校においても薬物乱用防止教室が警察等の力を借りておこなわれています。しかし、それよりも「もっと根本的な問題（薬を体に入れる意義・意味）を小学生に自分で調べて考えてもらいたい」という小学校の先生方の要望を受け、以下のとおり企画・実施しました。

将来、薬剤師として薬物乱用防止教室を企画・実施する立場となる本学の学生にとっても、どのようにおこなえばいいのか、を考えてもらうために実際に自分で教えることを体験してもらいました。学生たちは小学生からの熱心な質問にも柔軟に応じ、積極的に小学生たちとコミュニケーションをとっていました。「わたしも京都薬科大学に入りたい」と感想文に書いてくれた小学生もいました。

■小学3年生（29名）対象

タイトル 「おくすりを使う時・のむ時の注意」

内容：導入（おくすりをなぜのむの？どんな形があるの？）

おくすり〇×クイズ（3問）

おくすり実験（緑茶と鉄剤、オレンジジュースと胃薬、くっつくカプセル）

説明（どうしてこうなるの？）

班ごとに学んだことの振り返り

発表

■小学6年生（41名）対象

タイトル 「カフェインについて学ぼう」

内容：導入（カフェインは何に入ってる？カフェインのプラス効果）

カフェインクイズ（どの飲み物が一番多いでしょう？）

カフェイン量調べ（緑茶、コーヒー、コーラ、エナジードリンク、薬、栄養ドリンク）

説明（カフェインのマイナス効果）

班ごとに学んだことの振り返り

発表



＜小学3年生＞
おくすり〇×クイズ



＜小学6年生＞
グループ（学生1名+小学生4名）ごとで
カフェインクイズとカフェイン量調べ

NEWS お知らせ

庶務課

■ 2018年度動物慰霊祭

10月31日（水）に、本校地の動物慰霊碑前において、2018年度動物慰霊祭を執り行いました。当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。土屋理事長、後藤学長、赤路副学長、加藤バイオサイエンス研究センター長をはじめ、多くの職員・学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

学内ジョブプロジェクトチーム

学生登録スタッフ制度として、学生に正課外で活躍できる場を提供することを目標に、学内で活動できるボランティアやアルバイト情報（学内ジョブ）を発信しており、現在も多くの学生にご参加頂いております。今回、その活動の一部をご紹介します。

【明治150年京都創生フェスティバル小中高生向け体験教室スタッフ】

京都府主催の明治150年京都創生フェスティバルにおいて、京都薬科大学で体験教室ブース（魔法の粉で芳香剤を作ろう・人工イクラでスノードームを作ろう）を出店しました。学生スタッフには、準備、参加者対応、実験サポートなどのお手伝いをして頂きました。小学生からお年寄りの方まで、幅広い層にご参加頂き、学生スタッフは一人一人に対して、丁寧な対応を行ってまいりました。



体験教室の様子

【京都薬科大学「いのちの時間」企画スタッフ】

京都薬科大学では、学生が医療人としての倫理感・感受性を育むために「いのちの時間」というイベントを開催しております。前回（第4回）より当イベントは、企画・運営を学生主導で実施しており、今回（第5回）の実施にあたり、1年次から4年次までの学生スタッフ8名がお昼休み等集まり、「どのような企画にするか」「広報はどうするか」などの打合せを行っております。

ぜひ、学生が考えた企画である、「いのちの時間」に学生・教職員の皆様もご参加いただきますようお願いいたします。

上記の他にも、新入生オリエンテーション運営スタッフ、KPUエコプロジェクト、京都薬科大学美化委員会、オープンキャンパス学企画スタッフ、大学公式SNS運営スタッフ、市民公開講座運営スタッフなど、楽しみながらも様々な経験を通して、学生の社会性を高める学内ジョブを配信しております。

何か新しいことに挑戦したいと考えている学生の皆さん、一度学内ジョブに参加してみませんか。

News 京薬会だより

<ホームカミングデーの開催>

今年度も母校の大学祭「京薬祭」にあわせて11月4日（日）に第9回ホームカミングデーを開催しました。

今回は、歓迎セレモニーにおいてはまず西野京薬会会長、土屋京都薬科大学理事長の挨拶に引き続き後藤学長より大学の種々の取り組み、ならびに国家試験の結果、進路状況や研究活動の紹介など大学の近況について紹介があり、そして自治会より岸田祐樹さんの歓迎挨拶がありました。

講演会では「iPS細胞と再生医学」と題して本学統合薬科学系 教授 高田和幸先生による講演がありました。また、OB、OGによる支援で活動を再開された京都薬科大学混声合唱団 ユーベルコールによる歌声を聞かせていただきました。

会場を移して行われた歓迎パーティーでは、受付時に参加者にお配りしたチケットを使って学生の出張販売を購入したり、また、模擬店に繰り出したりと、卒業生同士また、卒業生と在学生の交歓が随所に見られ、非常に和やかな会となりました。なお、お配りしたチケットは各クラブ、サークルに現金として還元し、活動の援助を行っております。

今回もたくさんの卒業生にご参加いただき盛会となりましたが、今年はこの会にあわせて京都支部の総会も開催され、また、同期の仲間で誘い合わせて参加し歓談したり、といった光景もありました。

また、新装なった愛学躬行資料室にも多くの卒業生が来室し、京薬の歴史に感動、また卒業アルバムを見て在学当時を懐かしむといった様子もありました。

次回もまた新しい企画を用意し、11月初旬の京薬祭に合わせて開催しますので、お誘いあわせの上母校にお越しください。卒業生の皆さんの多数の参加をお待ちしています。

<京薬祭への協賛ならびに優秀クラブ表彰>

11月3、4日の両日、京薬会協賛の「京薬祭」が盛りだくさんの企画で開催され、催し、模擬店と夜遅くまでにぎわいました。

昨年よりホームカミングデーの会場に場所を移して実施しております恒例の京薬会によるクラブ表彰では、優秀クラブとして本年は「華道部」、「京炎そでふれ！京躍華」そして「学生自治会」が選ばれ、副賞を添えて表彰しました。

■ソフトテニス部

活動実績

関西薬学生ソフトテニス大会
 男子団体 4位
 女子団体 2位
 女子個人戦 森川・鳥本ペア 準優勝
 阿部・山下ペア ベスト8

全国薬学生ソフトテニス大会
 男子団体 4位
 女子団体 ベスト8
 男子個人戦 堀内・山元ペア ベスト8

今後の予定

4月 関西医歯薬学生ソフトテニス大会
 5月 四薬戦
 8月 関西薬学生ソフトテニス大会
 11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

■陸上競技部

2018年度 活動実績

全日本薬学生対抗陸上競技大会 (2018. 5. 5)
 男女総合:1位
 男子
 100m 2位 野村航也
 800m 3位 勝山陽介
 5000m 1位 清水長智
 三段跳 3位 坂口雅弥
 4×100mR 1位 勝山-坂口-大川-野村
 女子
 800m 1位 林千晶
 3000m 2位 田中里奈
 4×100mR 1位 西岡ゆ-嵯峨山-西岡か-田中ゆ

関西薬学生対校陸上競技大会 (2018. 8. 18)
 男子
 100m 2位 大川貴也
 1500m 3位 勝山陽介
 三段跳 3位 北田真也
 4×100mR 1位 勝山-大川-安藤-野村
 女子
 200m 2位 嵯峨山理紗
 400m 1位 田中薫夏
 800m 2位 荒木万輪
 3000m 1位 田中里奈
 4×100mR 1位 西岡ゆ-嵯峨山-西岡か-田中ゆ

今年度も部員の活躍により好成績を残すことができました。これに満足することなく、日々向上心を持って練習に取り組んでいきます。

■硬式野球部

活動実績

京滋大学平成30年度 京滋大学野球連盟
 秋季リーグ戦 II部結果
 9月2日
 京都薬科大学 対 大谷大学
 0-10 負け

9月16日
 大谷大学 対 京都薬科大学
 3-2 負け

9月23日
 京都薬科大学 対 京都工芸繊維大学
 7-4 負け

10月7日
 京都薬科大学 対 滋賀県立大学
 1-5 負け

10月8日
 京都外国語大学 対 京都薬科大学
 6-7 勝ち

10月13日
 京都薬科大学 対 京都府立大学
 5-6 負け

10月14日
 京都府立大学 対 京都薬科大学
 4-5 勝ち

10月21日
 京都工芸繊維大学 対 京都薬科大学
 9-4 負け

10月27日
 滋賀県立大学 対 京都薬科大学
 13-1 負け

10月28日
 京都薬科大学 対 京都外国語大学
 2-1 勝ち

11月3日
 福知山公立大学 対 京都薬科大学
 1-9 負け

11月4日
 京都薬科大学 対 福知山公立大学
 0-10 負け

全体では6位でした。

■華道部

こんにちは、華道部です。私たちは週1回木曜日のお昼休みに、先生に来ていただいてお稽古をしています。

今年度は2年次生から6年次生まで計19名で活動しました。大学に入って華道を始めた部員も多くいますが、毎回きれいなお花に癒され、日々の忙しさを忘れてお花を生ける時間を楽しんでいます。また、学年が上がってもそれぞれがマイペースに部活に参加しており、6年間部活を続けた先輩の中には、師範の免状をいただく方もいます。昨年の11月に行われた京葉祭では6年次生を含む10名が展示をし、多くの方に足を運んでいただきました。これからも、大学生のうちしかできないであろう華道を楽しんで続けていきたいです。

■茶道部

こんにちは、茶道部です。私たち23名の部員は毎週火曜日に外部の先生をお呼びして、茶道のお稽古に励んでいます。お稽古では、楽しみながらおもてなしの心、礼儀作法を学んでいます。毎年4月には世界遺産の建仁寺で春茶会を催しており、2年次生と4年次生が着物を着てお点前をします。卒業生の方も来てくださり、にぎやかなお茶会になっています。また、11月の京葉祭では2日間模擬店を出店し、2日目には松寿軒のおいしい和菓子と辻利のお抹茶をお出ししています。これからも、学生のうちしかできない茶道を楽しみつつ精進していきたいです。

■漢方医学研究部

こんにちは、漢方医学研究部です。私たちは今年の活動として、植物の栽培、薬膳料理会、学園祭の準備等を行いました。

植物の栽培では、本学の薬用植物園に場所を借りて漢方の材料となるニホンカボチャを育てました。順調に成長したので収穫後には薬膳料理会で調理しました。

学園祭では1・2年次生を中心にして3年次生のサポートのもと、班ごとに漢方についてテーマを定めポスター展示を行いました。また今年度は新たな試みとして、模擬店での出品も行いました。

現在は学園祭での反省や今後の活動について検討しているところです。

■マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。マンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏します。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、日々部員同士で練習したり、技術顧問の先生のご指導を受けたりして、楽しく活動しています。合宿も春・夏と年に2回行っています。

去年の夏合宿では練習だけでなく、ラジオ体操や打ち上げ花火なども行い、楽しい思い出ができました。現在は4月21日（日）開催の京都マンドリン連盟による合同演奏会や、卒業式での祝奏にむけ練習しています。最近では福祉まつりやクリスマス会などの依頼演奏において、アンサンブルを披露し地域交流にも積極的に参加しています。

■硬式庭球部

硬式庭球部は現在1、2年次生の男子4名、女子8名で活動しております。

活動実績

3月 春季関西地区コメディカル硬式テニス大会
(女子のみ)
・団体戦 第4位

3月 春合宿

8月 関西薬学生連盟硬式庭球大会

- ・団体男子 準優勝 (13校中)
- ・団体女子 第3位 (11校中)
- ・個人男子 第2位、第3位 (66人中)
- ・個人女子 第2位、第4位 (46人中)

11月 京葉祭 (模擬店出店)

12月 学内駅伝大会

その他、春と秋にはOB戦や定期戦を行いました。現在、部員一同 8月の大会での優勝に向けて練習中です。応援のほどよろしくお願ひします。

2019年度推薦入学試験結果

Report

入試課

2019年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験は2018年11月12日（月）に、一般公募制推薦入学試験は11月17日（土）に実施され、11月27日（火）に合格発表が行われました。

結果は右のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	47名	47名
一般公募制推薦	80名	296名	86名



水中でふっふっ

— 第9話 —

“出汁が気になる”

学長 後藤 直正

昨2018年は大阪北部地震に続き、西日本各地で豪雨に伴う洪水、土砂崩れ、しかし変わることなく芙蓉花先端に及び、梅雨が明けた。用件の時刻よりもかなり早く大阪に着いた。気分転換に紀伊国屋▲人の流れが緩やかな先に“書道”。立ち読みで学んだ勘亭流でタテカンを書いた遠い日の同級生の顔が彷彿と。今はなき“松葉”に憧れていた頃。つぎに漂着したるは“能楽”。無言で心情を語る能面に惹かれはするが、その解説を延々と読み楽しむ能はなし。また当てのないひょっこりひょうたん島。それを見透かしたか、棚からはみ出た竹本織太夫監修『文楽のすゝめ』（実業之日本社）。「小難しいもんはよう読まんやろ。けどうちのは易しいさかい、サクッと済みま。まあ、固いこと言うてんとちょっと寄ってきい」と客引きよろしく誘う。いともたやすく絡めとられた▲かつて高校から文楽座。太夫の通りのよい太い声音はいまでも覚えているが、三味線と人形は覚えなし。織太夫曰く「文楽を例えるなら天ぷらうどん。主役のうどんは太夫で、うどんを支える味わい深い出汁が三味線。食欲をそそるよう、彩りを添える天ぷらが人形遣い。三つがそろって最高に旨いうどんが完成します」と。そうか、飢えた高校生はうどんにしか目が行かんかったんか▲飢えも収まって今日この頃、「三味線が出汁」気になる。そしたら太夫も人形も三味線次第と？ 文楽の三味線弾きに惚れたばかりに、数奇な運命が連続するが、健気に生き抜く女性を描いた有吉佐和子著『一の糸』（新潮文庫）から三味線弾きが語る一節「一の糸が切れたときには――三味線はその場で舌嚙んで死なならんのやで」、三浦しおん著『仏果を得ず』（双葉文庫）も三味線だ！と言う▲文楽は『仮名手本忠臣蔵』のような時代物と近松門左衛門による実話再現ドラマ「世話物」に分けられる（小野幸恵著『週刊誌記者 近松門左衛門-略』（文春新書））。『心中天の網島』の大長寺があった網島町はかつての通学路、で近松は-勝手に-身近な存在。けど、悲しきかな、原文はよう分らんが数珠繋ぎ、“Don't sleep through life”とチコちゃんが巨大化しそう。なので、諏訪春雄著『曾根崎心中、冥途の飛脚、心中天の網島』（角川学芸文庫）、角田光代著『曾根崎心中』（リトル・モア）、祐田善雄著『曾根崎心中・冥途の飛脚 他五篇』（岩波文庫）の現代語訳、「そうなんかあ」を仕入れて、ようやく原文へ。今どき、近松世話物程度では「へえー、そんなんで心中するの」と片づけられるが落ち。が、当時は刺激的、その流行に「忠を分断するは何事ぞ」とのお触れがあったそうな（出典忘却）▲筋はともかく、意味を伏せ、言葉を繋ぎ、韻を踏み、リズムカルが興をひく。恋慕の情で銀横領、やましさゆえに戻るか、恋しさゆえに瀬戸際を越えよかと飛脚屋忠兵衛葛藤する場面「一度は思案 二度は不思議 三度飛脚。戻れば合わせて六道の冥途の飛脚と」、また別では「おっとまかせと足軽く。走る三里の灸よりも小判の利(きき)ぞこたへける」（ともに諏訪著）▲文楽の太夫は麻の腹帯(犬印にあらず)を締め、下腹に仕込んだ砂袋(オトシ)を両の手でしかと掴み、太棹三味線に導かれての全身の語りにて、味わい深い出汁に浸るうどんと化す。米の精なるオトシを身につけた黙読太夫は両の手で近松本をしかと掴みけるが、熱い出汁に浸ることなく酷暑を越えた。

授業料免除制度（旧：京都薬科大学授業料減免型奨学金）

利用者より感謝のお手紙を頂きました

Report

理事長 土屋 勝

本学では、経済的理由により修学を継続できない学生に対して、授業料の免除を実施しております。今般、諸事情により在学困難になった学生の保証人様より、本制度を利用することにより修学の継続ができたことに対して、感謝のお手紙を頂きました。当制度を通じて、学生を支援できたことを大変嬉しく思っております。

本学は、今後も卒業生や有志の皆様からの寄付金により運営する奨学金制度や、授業料免除制度を充実させ、大学での学びを諦めることなく、学生一人ひとりの頑張りに対して、支援をしていきたいと考えております。卒業生をはじめとする皆様へ、今後とも温かいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2018年9月～2018年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

安藤 寛治(昭29)	大谷 善二(昭41)	稲垣 美幸(昭45)	吉田千枝子(昭47)	奥川 信子(昭53)
鎌倉 嘉男(昭36)	國貞 眞司(昭41)	松本 勉(昭46)	米満 弘夫(昭47)	鈴木 宏樹(昭53)
大賀 弘一(昭37)	森 道子(昭41)	青木加恵子(昭47)	川崎 真子(昭49)	遠迫美由紀(昭54)
福田芙美子(昭37)	山下 繁克(昭41)	イゼリ和代(昭47)	鈴木やよい(昭49)	印部 亮助(昭56)
本岡美智子(昭37)	山下三千子(昭41)	宇野 文夫(昭47)	榎本 律子(昭49)	米谷 元彦(昭56)
村山猪一郎(昭38)	久米 和子(昭43)	織田 朗(昭47)	丹所 稔(昭51)	米谷 玲子(昭57)
増田 淑子(昭39)	久米 光(昭43)	倉元 京子(昭47)	福岡太英子(昭52)	新留 香二(平03)
太田 俊作(昭40)	富永 護(昭43)	佐曾利幸子(昭47)	森 一二美(昭52)	楠山 龍(平05)
加納 亜子(昭40)	古本 靖弘(昭43)	東 栄吾(昭47)	奥川 斉(昭53)	京薬五五会

＜ 京薬四四会卒業50周年記念募金（昭和44年卒業生）（五十音順）＞

青山 昭策	大賀 邦子	武久 善孝	松嶋 京子
池田 啓子	菊竹順一郎	田島 利明	松本 喬子
池田登喜雄	黒岩 屹	藤稿 佳久	向井 忠晴
内原 信次	鈴木 礼子	野田 浩逸	山口 勝弘

＜ 平成元年会卒業30周年記念募金（平成元年卒業生）（五十音順）＞

江頭 政治	大谷 俊秀
-------	-------

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

森 新(評議員) 森田 和子(理事)

(2018年11月30日現在)

決定！新タグライン「社会を動かす薬学へ。」

これまでのタグラインは「薬学の未来をつくる」でしたが、これからは、職員、学生及び卒業生が一体となり、京都薬科大学全体で、薬学、医療の枠を超えた多様なフィールドで社会に貢献する活動に取り組んでいきたいと考えています。是非、ご協力ください。

社会を動かす薬学へ。



■ お詫びと訂正 ■

「KPUnews No. 195」奨学寄附金芳名録におきまして、石黒道彦様を卒業生の欄に記載すべきところ法人役員の欄に記載しておりました。お詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。



KPUnews No. 196

2019年1月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691 (企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。